

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○3月23日～

先週は各国で金融政策を決める会合がありましたがオーストラリアが利上げをした以外は、日米欧、英国、スイスは金利据え置きとなりました。

ホルムズ海峡が閉鎖されたままで先行きに対する見通しが難しくなっていることもあり、今回は予想通り、各国金利の据え置きとなりました。

ただし、原油高から世界がインフレになれば、金利を引き上げてインフレ対策を考えないといけなくなる可能性があります。

オーストラリアは今年に入って2度目の利上げとなっており、世界は昨年までの利下げの動きから今年は利上げの動きに変わってくる可能性が高まっています。

米国の利下げも期待だけが先行していますが、本当に今年利下げがあるのかどうかも微妙です。

原油高の影響で年内の利下げ見通しの予想は消えてしまったという声もあります。

米国以外については日本も含めて利下げより利上げの可能性が高まっているため株や仮想通貨などのリスク資産にとってはマイナスの動きとなります。

また、ゴールド(金)も金利がつかない金融資産のため世界が利上げに動き始めると選ばれにくくなる可能性があります。

先週も金と銀は大幅に下落しています。年初の上昇幅を全て失ってしまった状態です。

今までのゴールド(金)高・ドル安の逆で、ドル高・ゴールド安の動きが強まるかどうかにも注目したいです。

各国の金融政策の影響で昨年までとマネーの流れが一気に変わってくる可能性があるということも考えて、中長期的なチャートもしっかり見ていきたいです。

為替市場については、先進国間の金利差が少なくなっていけば極端な動きは出ないかもしれませんが。現在は一番金利が高いのがオーストラリア、次いで米国と英国、そして欧州、カナダ、ニュージーランドがほとんど同じ金利となっています。

日本はまだ1%以下の金利で、スイスは0%ですがスイスフラン高が止まっています。

もちろん、今一番の問題は中東問題が長引き、原油価格が上昇し、経済が大混乱し、不況とインフレが同時進行するスタグフレーションになっていくことです。

米国は戦争を早期に終わらせたいのか継続したいのか全く見えない状況です。

先週行なわれた日米首脳会談は無難に終わりましたがホルムズ海峡の問題について何か進展したわけではなく、状況は厳しいままです。

攻撃が軍の基地だけでなく、エネルギー関連施設などインフラにも広がっていることが心配です。

一度破壊されると復旧に数年がかかると言われており、経済への打撃が大きくなります。

今週も中東情勢をにらみながらの取引になりそうです。

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

原油価格が再び1バレル=100ドルを超えてくればリスク回避的な動きが強まるため注意がいら
ます。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

ドル/円は160円手前まで上昇した後、急落し、一時157円台まで下げた後は159円台前半ま
で戻してマーケットは終わっています。

160円では介入警戒感が強まるため上値が重くなっています。

160円を超えると162円手前まで上昇する可能性はありますが高値買いはリスクが高いため慎重
にトレードしていきたいです。

下値は158円台を維持している間は堅調な動きが期待できそうです。

先週安値の157.5円を割り込むと155円あたりまで下落するリスクが出てきそうです。

<気になるクロス円>

クロス円は高値圏での推移が続いており、日足、週足の形が崩れないかどうか気にしながら取引し
ていきたいです。

南アフリカのランドは週足、月足ともに崩れてきているため安値更新の動きを警戒したいです。

ランドはプラチナなどの貴金属との連動が強い通貨のため貴金属市場が崩れていくと連動して下
げてくるかもしれません。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では2月全国消費者物価指数、日銀・金融政策決定会合議事要旨などがあります。

米国では3月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、3月リッチモンド連銀製造業指数、前週分
新規失業保険申請件数、3月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで3月製造業・サービス業PMI(速報値)、ユーロ圏でラガルド・ECB 総
裁発言、ドイツで3月IFO企業景況感指数などがあります。

ほかには、オーストラリア、英国で2月消費者物価指数、南アフリカで政策金利の発表などがありま
す。